

所沢北岩岡太陽光発電所と北田山寶泉寺

記 佐野喜代子

■実施日時 令和3年(2021)11月4日(木)10時~12時30分

■参加者 17名

新型コロナウイルスの感染も下火にはなり始めていますが、油断禁物ということで市内での活動になりました。

所沢市は昨年市制施行70年に当たり、ゼロカーボンシティ宣言をしました。その一つの事業として、「ソーラーシェアリング」を実現したのが北岩岡太陽光発電所です。西武鉄道の子会社・農業事業会社西部アグリと日立系のHGE株式会社と所沢市が連携し、営農と農地有効利用と再生可能エネルギーを組み合わせたもので、ソーラーパネルの下の農地で作物を育てるというものです。

植物は太陽光の30~40%を吸収すれば成長できることを利用して、パネルの大きさ、角度、間隔などを計算したものです。静岡県ではすでにお茶畑でソーラーシェアリングが行われているとのこと。この畑の場合支柱の高さは4m、お茶畑ではもう少し高い支柱とのことでした。一般家庭300世帯分の発電量があり、所沢未来電力に売電しているということです。

ブドウ畑の中では自動草刈り機が、24時間疲れることなく動き回っているそうです。亀が動いているのかと思いました。この畑では現在ブルーベリー、ぶどう、ワイン用ぶどうを栽培、2023年には観光農園としてオープンを予定しているそうです。近い将来所沢産ワインが飲める日が来ることでしょう。



まちごとエコタウン推進課の案内と説明をしていただき質問も多くありました。



市のFCVを見せてもらい説明に皆さん関心を寄せられていました。

帰路、北田山寶泉寺で本堂に上がり、御住職の話を伺いました。

北田新田は元文年間(1736年)より始まった北武蔵野新田開発の地で、住民には寺院建立の思い強く、現青梅市金剛寺の末寺で、沢井村に荒廃した寺があることを知り、許可を得てこの地に移転させ、寛永年間(1748年)本堂を建立し、北田山長寿院寶泉寺と命名した。その後安政5年(1858年)の住職・好園の墓石を最後に無住となったらしく、寺の歴史を確証するものは無くなってしまいました。その間檀徒の手で護持され、昭和43年から無住ではなくなり、昭和53年、現在の御住職の父上が藪を切り払い、林をそろえ、そして平成10年に現在の本堂などが落成されたとのことでした。新田開発の苦難の歴史を物語る寺院見学でした。

によきによきと高層マンションが立ち並ぶ街も、さえぎるもののない空が広がる畑もある所沢を実感し、過去と未来を行き来したような一日でした。説明して下さった市の職員、寶泉寺の御住職ともに若く話も明瞭でわかりやすくその上仕事に対する情熱も感じられ、これからの時代に大いに希望を持ちました。